



『編集』のオープン化が始まる

私事で恐縮だが、私は約25年間、編集の仕事をしている。テーマは、今で言うところの「IT」である。その間、パソコンというものを知るにつけ、そのコンピューティングパワーは人々の作業時間を短縮させ、結果、「プロとアマの境界」を曖昧にするだろうと予感した。また、インターネットというものを知ったときには、それがコミュニケーションにおける時間と距離を短縮させ、「個人と組織の境界」を曖昧にするに違いないと予感した。そして多くの革新がもたらされた。

しかしその過程で、デジタル化の波に洗われ、変質または消滅していった職業も少なくない。たとえば、文字入力業は現在ではほとんど存在しないし、ロットリングで線を引く光景も目にしない。また、マーケティングの手法は一変しようとしている。私はあるとき、自分の職業である編集がデジタル化されるのはいつなのか、という疑問を持った。88年くらいだっただろうか。このときの予測は、編集は複雑で感性に近い領域の業務なので、人工知能でもできない限りそう簡単には置き換わらないだろう、というものだった。しかしそれは、インターネットの検索エンジンが登場したころには、違う見解になっていた。なぜなら、たとえば「ペット 宿泊 ホテル」というキーワードで検索して表示されるコンテンツ並びは、「ペットと泊まれるホテル」という出版物と本質的に近いと思ったからだ。つまり、編集が「情報を知識に変える方法論」だとするならば、その工程の一部がデジタル化されたと思えた。いまやホテルに限らず多くの情報がデジタル化され、ユーザーの「編集指示」を待っている状態だ。

今号で紹介している最新の検索サービスは、その検索手法が高度化しており、その検索対象も大きく拡大されつつある。日本の編集のオーソリティーである松岡氏も、「編集なき検索は検索ではない」とインタビューで語っておられる。つまり、検索は編集と密接な関係にあり、情報の質を高めていくためのキーソリューションとなり得るのだ。思うに、ブログ、RSS、高度検索などが作り出す流れは、「発信者と受信者の境界」を曖昧にするものであり、同時に「編集」という作業がデジタル化(オープン化)され始めた兆候だろう。この事態は、私たち編集者には「いよいよ自分のお尻にも火が着いた」ということだが、読者にはこの上ない朗報ではないだろうか。

井芹昌信 <iseri@impress.co.jp>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp